

雪氷写真館⑨ 「極寒ラボ」 -30℃を体験できる常設の展示室・名古屋市科学館
“Deep Freezing Lab”: Permanent exhibition where visitors can experience -30℃, at Nagoya City Science Museum



写真 1 外観

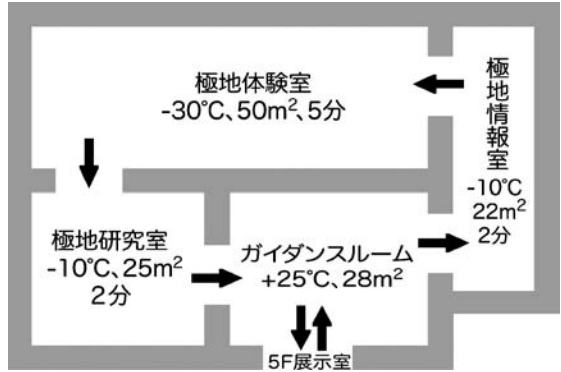


図 1 極寒ラボ平面図



写真 2 「極地情報室」



写真 3 オーロラ全天周映像投影



写真 4 さわれる氷の展示



写真 5 つらの薄片



写真 6 「極地研究室」



写真 7 体験のようす

「極寒ラボ」 -30°C を体験できる常設の展示室・名古屋市科学館

名古屋市科学館（名古屋市中区栄二丁目17番1号）は、平成23年3月19日にリニューアルオープンした。開館にあたっての目玉展示の一つとして「極寒ラボ」が理工館5階に冷凍庫同様に設置された（写真1）。当初「非日常空間としての極低温が体験できる」ことを目的として展示計画に盛り込まれ、担当学芸員（筆者）によって、単なる低温の体験から極地に関する体験型展示へと発展し実現されたものである。

極寒ラボは -30°C を体験できる部屋を「極地体験室」、温度維持のために設けられた前後の部屋（ -10°C ）をそれぞれ「極地情報室」「極地研究室」とした（図1）。各部屋は自動扉で仕切られている。見学者は、最初にガイダンスルームでコートをはおり極地情報室（写真2）に入るが、その後の移動はあらかじめ録音された音声ガイドに従う（図1）。

各部屋の主な展示は次のとおり。

【極地情報室】極地とはどのようなところか（パネル）、体験上の注意（映像）。

【極地体験室】オーロラ全天周映像（写真3）、氷の実物（触ることができる）・実験・薄片（写真4、5）

【極地研究室】極地での研究について、昭和基地内外実物展示（写真6）、ライブ映像。

温度管理上、1回20名・所要時間約20分、土日祝日は1日12回、平日は10回のツアー形式の体験としている。体験整理券の配布は1日2回、朝9:30と昼13:30であるが、配布開始1時間前に並ばれたお客様でも、整理券を受け取れないことがあるほどの人気である。特に夏休み等の学校休業期間中と土日祝日には、並んでお待ちのお客様が大変多いために、配布開始から10分程度ですべて配布終了してしまう。

名古屋に限らず雪氷に縁遠い地域では、このような施設によって雪や氷に触れてもらうことが雪氷学について知るきっかけとなると考えている。

極寒ラボは、国立極地研究所ほかの研究施設や大学、北海道立オホーツク流水科学センターをはじめとする先行施設、実物建材をご提供いただいたミサワホーム(株)、その他多数の組織・企業・個人の方々のご協力でご実現したものである。この場を借りて感謝したい。

小塩哲朗（名古屋市科学館学芸課）